

# 第3学年 保健体育科学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日時 平成18年10月2日(月) 6校時

学級 3年1組(男子15名 女子18名 計33名)

授業者 山根 章広

## 1 単元名 器械運動(マット運動)

### 2 単元について

#### (1) 単元について

器械運動は、マット、鉄棒、平均台、跳び箱などの器械・器具の特性を生かした回転、懸垂、バランス、支持跳躍などの巧技的課題をもつ技で構成されている。1つひとつの技には名称がつけられており、動きの構造からそれぞれに運動課題をもっている。技や技能の構造特性から授業を計画すると、技の課題性や構造に着目して段階的・系統的に学習を進めることができる。また、非日常的な運動から成り立っているため、学習を進めていく中で自分の身体をコントロールする能力やそれに必要な筋力が高まるとともに自分の身体を動かすための工夫や努力、また、友達と協力することも同時に学ぶことができる。

したがって、器械運動を学校教育で取り扱う意義には次のようなものがあげられる。

日常生活では経験できない複雑な姿勢の変化やそれに伴う多様な運動感覚を身につけることができる。

いろいろな技に取り組んでいく中で、技の達成やできばえに楽しさや喜びを味わったり、協力して学習する楽しさを味わったりすることができる。

技ができた、できなかったという結果だけではなく、技を覚えていく過程にも楽しさを味わうことができ、自分の動きに対して自己観察能力を養うことができる。

技の課題性から、目標とする動きに対して自分の体をどのように動かせばよいかを考えることができ、生涯を通して運動を楽しむための基本的な力を養うことができる。

このような教育的意義をふまえ、マット運動を題材として取り上げた。

#### (2) 生徒の実態

明るく素直な学級で、体育の授業にも積極的に取り組もうとする姿勢をもった生徒が多い。また、始業時には授業の準備ができており、教科リーダーを中心として学習規律もよい。しかし、指示されたことについては一生懸命に取り組もうとするものの、さらに追求・向上しようとする面についてはやや欠ける生徒が多い。また、課題に対して「できた」「できなかった」というように一面的に考える傾向が強いため、自信がもてずに周囲の目を気にしてなかなか取り組み始められない生徒や、一つのことに粘り強く取り組むという姿勢が弱い生徒がおり、技能の習熟に時間がかかることも多いのが現状である。したがって「なぜできないのか」「どうしたらできるようになるのか」という問いかけを繰り返していき、思考力・判断力を高めていきたい。

#### (3) 指導の構想

このような実態を踏まえ、本校の研究主題「確かな学力を育てる教科指導の実践的研究」に迫るために、本科では「技能の向上に向けて、仲間と協力して考えたり工夫したりして運動を行う生徒の育成」を目標として掲げ、課題解決型の学習を通して課題解決能力を養っていくことが確かな学力の育成につながると考えている。

この単元では、生徒にとって敬遠されがちなマット運動の学習において、課題解決型の学習を展開しようと考えた。この課題解決型の学習では、自分たちがいかにして「課題を把握」し、その解決方法を「予想」し、結果の「分析・検証」を経て「新たな課題の発見」に結び付けていくかが重要であり、「課題の把握」「予想」「分析・検証」

「課題の把握」というサイクルが、思考力・判断力を高め、技能の向上につながると考える。

「分析・検証」の場面については、ビデオカメラを用いて自分たちの演技を客観的に捉えさせ、自分たちのイメージしている姿と、実際に映像で見る自分たちの姿との違いを認識させながら学習を進めさせたい。そして、集団で技を組み合わせながら、連続してよりよく表現しようとする中に、自分たちのよさや可能性を認め合うことで喜びを味わわせながら、思考・判断の場面を多く取り入れたい。また、生徒が意識して思考・判断できるように、思考・判断の場面・視点を明確にするとともに、自己評価・相互評価をはじめ、教師からの評価においても、「できた」「できなかった」という一面的なとらえではなく、思考・判断の場面そのものの評価を徹底して、運動の学び方を身につけさせたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 関心・意欲・態度

マット運動の特性に関心を持ち、仲間と協力し、認め合い励ましあいながら進んで練習することができる。  
 自他の役割を理解し、それぞれの責任を果たしながら協力して学習に取り組むことができる。  
 マットの周囲・自他の健康・安全に留意し活動することができる。

#### (2) 思考・判断

自分たちの課題を把握できる。  
 課題解決に向けての予想を立てることができる。  
 立てた予想を基に自分たちの実践を分析・検証することができる。  
 新たな課題を発見できる。

#### (3) 運動の技能に関して

グループで課題解決に向けて考えたり工夫したりした動きを実践できる。  
 練習の成果を発揮し、演技を披露することができる。

#### (4) 知識・理解に関して

マット運動の特性や学習のねらい、進め方などについて理解できる。

### 4 指導計画

	1	2	3	4	5		7	8
10	オリエンテーション	ランニング・体操・補助運動						
20		スキルチェック	シンクロ練習	シンクロ練習		演技の構成		発表会
30								
40								
50								
	グループミーティング		全体ミーティング		整理運動			

### 5 本時の目標

- (1) グループで、今できる技の種類・方向・タイミングを工夫して演技の構成ができる。(思考・判断)
- (2) 仲間と協力し、認め合い励ましあいながら活動することができる。(関心・意欲・態度)
- (3) グループ内で課題解決に向けて工夫した動きを実践できる。(技能・表現)

### 6 本時の評価規準

		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現
具体的評価規準	おおむね満足B	・仲間と協力し、認め合い励ましあいながら進んで練習を行うことができる。	・グループで、今できる技の種類・方向・タイミングを工夫して演技の構成ができる。	グループ内で課題解決に向けて工夫した動きを実践できる。
	十分満足A	・積極的に仲間と協力し、認め合い励ましあいながら進んで練習を行うことができる。	・グループのメンバーの特徴を生かしながら、今できる技の種類・方向・タイミングを工夫して演技の構成ができる。	グループ内で課題解決に向けて工夫した動きを実践し、分析できる。
	Cへの支援	・仲間と協力し、認め合い励ましあいながら練習できるように助言する。	・今できる技の種類・方向・タイミングを工夫して演技の構成ができるように助言する。	グループ内で課題解決に向けて工夫した動きのポイントを助言する。

7 本時の展開

評価 聞き方レベル  
 学力 ( 1 学ぶ力 2 学ぶための力 3 学んだ力 4 学ぼうとする力)

段階	学習過程	生徒の活動	指導上の留意点
導入 10	0. 学習準備 既習事項の確認	0. 学習の準備 ・用具類の準備 用具類の準備を行い、周囲の安全を確認する。 ・準備運動 ランニング、徒手体操、柔軟運動、補助運動を教科リーダーの指示で行う。 ・あいさつ 整列しあいさつをする。 (思い出してみよう) ・前時のまとめから、本時の学習目標を確認し、本時の学習の見通しをもつ。 LV4 (うなずきながら)	・仲間と協力して準備と安全点検を行わせる。 ( 4 : 意欲) ・欠席、見学の生徒の確認および体調の優れない生徒の確認をする。 ・教科リーダーの指示で十分に体をほぐさせる。 ( 1 : 学習規律)  ・学習意欲を喚起させる。( 4 : 意欲)
	1 課題の把握	1 ( 解決することは何か) LV5 (人に伝えられるように)	*シンクロの学習を参考にして、グループ演技の構成の学習を進めている。
展開 30	グループで、今できる技の種類・方向・タイミングを工夫して演技の構成ができる。		
	2 課題解決の予想	2 ( たぶん～だろう ) グループごとに前時の課題を確認する。	2 グループリーダーを中心に、課題解決のための方法を確認させる。( 1 : 予想)
	3 予想の分析・検証	3 ( 確認しよう ) 確認した内容をもとに、集団演技を行う。 試してみた活動について、リーダーを中心にビデオ分析し、成果と課題を確認する。	3 演技を行い、できばえをビデオ等で確認させる。( 2 : 表現)
	4 課題の解決  ( B ~ E の繰り返し )	4 ( わかったことは ) 分析・修正結果について、チーム内で技の種類や方向・タイミングについて修正する。他のグループと交流し高めあう。 LV7 (自分の考えと比べながら) ( B ~ E の繰り返し )	4 演技を分析して課題を発見し、修正をしたり、自分たちにあった演技の再構成をしたりさせる。 ( 2 : 思考・判断) 他のグループの修正や選択を聞いて、仲間をたたえたり、自分たちの考えを高めたりさせる。 ( 2 : 思考・判断)
	1 課題の把握	1 新たな課題を把握する。	1 交流から、新たな課題を把握させる。 ( 2 : 表現)
	2 課題解決の予想	2 グループごとに予想を立てる。	2 次時に向けてビデオで演技を分析して課題を発見し、技の種類や方向・タイミングの修正をしたり、再構成したりさせる。( 2 : 思考・判断)
終結 10	5 評価	5 評価 整理運動を行う。 学習の成果を確認する。 教師の評価を聞き、あいさつをする。	・体調不良、怪我の有無の確認をする。 ・学習の成果を確認し、教師からの評価を行う。